

当日（3月11日）

東京からエコチルの会議を終え、新幹線で白河に移動中、那須塩原（栃木県）を過ぎたところで地震発生。新幹線が止まってからも、かなり激しい揺れが続く。

インターネットで「仙台近辺でM8.2の大地震が起こり津波が発生」ということを知る。

電話も通じず、不安なまま停電した車中に8時間以上閉じ込められる。

救援部隊が来たのは夜11時ころ。

新幹線の線路を20分ほど歩き、JRが準備してくれたバスに乗って那須のホテルへ。

ホテルロビーに設置してある大画面のTVで状況を把握。

夜12時過ぎ、大広間に收容され、塩おにぎりの提供を受け、ホッとする。

大広間に100名程度が雑魚寝状態で3時間程度仮眠。TVで状況を見守りながら、

とりあえず明朝、仙台に戻る方策を思案する。山奥のホテルで、大地震後でもあり、街灯も消えており、山道を夜間に移動するのは危険と判断。夜が明けてからの行動開始が良いと思い、まずはタクシーを明朝6時に予約。

帰仙（3月12日）

朝6時、避難している乗客から相乗りを二人見つけ、夜明け前に出発し、白河までのタクシーで移動。

山道であるが、それほどなさそう。しかし、白河に入る4kmくらい前から大渋滞となっており、タクシーをあきらめ徒歩へ。新幹線の新白河駅は閉鎖。さらに徒歩で1km離れた白河駅へ。8時ころ到着したが、一見、大きな被害もなさそうで、従来線は動くのではないかと期待していたが、今日は全面運休という張り紙がありがっかり。・・・というところで、目の前に白河厚生病院往きのシャトルバスが巡回してきたので、本来の目的がその病院に行くことだったことを思いまし乗車。市内の一部は土砂崩れや屋根がわらの落下などがあり、次第に被害の大きさが実感される。白河厚生病院では本来は昨日会うはずだった産婦人科部長が当直されており挨拶し、とりあえずお互いの無事を喜ぶ。さらに他の産婦人科スタッフにも会って無事を確認。病院長にもあいさつしたところ、病院自体は無傷であるが、近くの病院が倒壊し、100名程度の患者さんを引き受けるとのこと。また、近くで土砂崩れがあり重症者がかなり運ばれているという情報をもらい、次第に仙台の様子が不安になってくる。病院長のご厚意で、病院公用車で北へ。東北道は完全に閉鎖状態。福島市、郡山市などに入る前は大渋滞なので、迂回しながら北進。北に進むにつれ屋根の破損、家屋の倒壊、ビルの倒壊などが目立ち、ラジオを聞きながらますます被害の大きさに茫然とする。

宮城県南の状況（岩沼、名取）がかなりひどいようなので、仙台市内の情報を得るために、また仙台に入るとドライバーがその日に白河まで帰れなくなるので、宮城県南中核病院で下車し、白河厚生病院の公用車を戻すことにする。県南中核病院は無傷。すでに災害対策本部が設置され、救急車も運び込まれている様子。病院長には、大学病院から副病院長が陣中見舞いに来たものと勘違いされる始末。産婦人科医の安否を確認した後、また公用車を借りて仙台へ。

沿岸のほうは水没しているようなので山側のルートで仙台入り。途中の街では家や蔵が倒壊しており、仙台の街中、特に大学の研究室の建物が無事かどうか心配となる。何と言っても医学部3号館は大学のすべての建築物の中でも、宮城県沖地震クラスの地震がもう一度来たら第一に倒壊する建物、という耐震診断を受けている。16時ころ、やっと大学病院へ到着。大学病院は病院長を災害対策本部長として動いており、戦場の中に放り出されたような気分。自分の居住区である3号館は外見だけは無事。産婦人科の入院患者さんの

安否、教室員の安否を確認。石巻、気仙沼、スズキ病院などの情報が全く入らず、

仙台より1（3月13日15：27）

東北大学病院とその周辺はあまり被害ありません。

宮城県の災害医療の中心となつてがんばっています。

教室員も全員無事。

今のところ、各病院に来ているのは軽傷者が中心です。

その意味するところは不明。

産婦人科としては、岩手医大の*教授、山形大学の*教授と連絡を取りながら、対応しています。

東北大学 **

仙台より2（3月14日14：01）

ありがとうございます。

幸い、産科の拠点化が完了しておりますので、分娩を扱う病院は生き残っています。

しかし、被災地周辺の開業医は全滅で、その妊婦さんが拠点化した病院に集まっています。

被災のひどいところに教室員を派遣したいのですが、そこにたどり着けないのが現状です。

今朝から、被災地周辺を取り囲むように、病院を拠点化して人を派遣しています。

東北大学 **

仙台より3（3月14日18時ころ）

宮城県内の分娩体制をお知らせします。

- 1) 仙台医療センターに*先生を臨時派遣。
- 2) 県南中核病院に*先生と阿部先生を臨時派遣。
スズキ病院には昨日、*先生を派遣し、すべての分娩を県南中核病院に送るよう手配スミ。
- 3) 本日、県南に*先生を派遣し、宮上、金上、しろがねなどを視察。
宮上、金上としろがねは刈田病院に無条件に引き受けすることになりました。
- 4) *と*、T'sにも派遣し、分娩は仙台赤十字に送るよう手配スミ。
- 5) 環状線沿いのs sと桜ヒルズ、こども病院には昨晚、私が直接行って、分娩を全てこども病院に送るよう手配スミ。
こども病院には、仙台社会保険の*先生を臨時に動かして派遣。
メリーの分娩はすべてこどもで。
- 6) 石巻赤十字病院には、*先生と*先生を派遣スミ。
- 7) 多賀城と塩釜の視察に、今朝、*先生を派遣し、池野、大井、利府、富谷、坂などを視察。
仙台医療センターまたは大学病院に送るよう指示しました。
- 8) 気仙沼には明朝、*先生と*先生の2名を派遣。

9) *産婦人科にも昨晚いってきました。

無理せずに大学に送るように言いました。

10) **は自然分娩は自前で行うとのことで、帝王切開は大学へ。

11) 古川には昨日、**先生を派遣。

中川、わんやは大崎市民病院に搬送というルートで。

12) 県北の*先生の分娩は栗原中央病院で対応。

*先生ご自身が病院に向いて分娩することになりました。

13) 仙台市内の病院は、仙台赤十字、公済、市立、仙台医療センター、大学病院、すべて今のところ、まだ大丈夫です。

受け入れできなくなれば、山形県立中央病院、山形大学で受け入れ可能。

山形はほとんど被害もなく、かなり余裕があるようです。

14) 気仙沼と石巻の開業施設は全く機能不全のようです。

とりあえず、以上です。

医会のメールで流していただくと助かります。

東北大学 **

仙台より4 (3月15日6:40)

1) 石巻は医療圏が約20万、仙台(東北大学病院)から約30km。

石巻赤十字病院には常勤が3名です。

当日、石巻に出張していたものも入れて4名で頑張ってきました。

昨日午後、東北大学から産婦人科医2名、小児科3名を含む8名を派遣しました。

したがって現在、石巻赤十字病院の産婦人科医は6名です。

周辺に分娩を扱う開業医が4件ありますが、1件以外は連絡が取れません。

連絡がとれた1件も「産科機能不全」状態です。

2) 気仙沼の医療圏は約6万人、仙台(東北大学病院)からは車で3時間(普段であれば)。

常勤が2名。周辺に分娩を扱う開業医が2件。

昨日午後、奇跡的に常勤の産婦人科医の携帯と医局長の携帯がつながり、状況を把握。

実はこれが医療機関として初めての交信でした。

途中が真っ暗なので、夜が明けるのを待って、朝6時、産婦人科医、小児科医、整形外科医など9名を送りだしました。

泣けてきました。

3) 産婦人科医のマンパワーについて

被災地の周辺を取り囲むように、拠点病院に産婦人科医を派遣しています。

現時点では宮城県に限っては産婦人科医の派遣は不要です。

しかし、1-2週間たってからどうなるかわかりませんので、その時点で改めてご相談します。

4) 産婦人科関係の物資について

仙台市内の病院も含めておむつやミルクが枯渇しかかっています。

物資の輸送は、最前線に直接、というよりも、まずは仙台に集積して、そこから被災地に搬送、というルートを考えてほうが良いかもしれません。

東北大学 **

仙台より5（3月16日10:54）

I まずはじめに、このメーリングリストに福島医大と岩手医大の産婦人科教授も含めたほうが良いと思います。

II 宮城県の産婦人科診療で最も困っていること。

分娩で使うディスポの産褥セット

ガーゼ、帝王切開のドレープ、手術のガウン、手術用手袋

全国のすべての組織がそれぞれ動いていますが、指示を出すだけで実際には物は届いていません。

おそらく今のままだと3日後くらいに全国から種々の組織を通して物資がどっさり集まり、そのときには供給過多になってしまう、ということをおそれます。

現在、山形側からの交通も確保されており、緊急車両の要請をすれば高速を走れます。

高速の中には緊急車両用のガソリンも給油できます（5000円まで）。

今必要なのは、指示を出す人間ではありません。

自分で上記の物品をかき集めて、自分で緊急車両要請をして、自分でトラックかバンに物資を詰め込み、自分で運転して仙台の東北大学病院まで今日のうちに運搬する、そういうサバイバル系の人間です。

東北大学まで運搬してもらえると、あとはこちらで分配可能です。

この件は、なるべく多くの産婦人科医に情報を流してもらえると助かります。

III 宮城県の産婦人科人員配置と産婦人科医療の現状

1) 今朝、気仙沼に産婦人科医二人派遣。

完全に孤立状態で、情報がほとんど入らず。

昨日、とりあえず東北大学に妊婦7名をヘリで搬送。

2) 今朝、石巻に産婦人科二人派遣。

DMAT、日赤関連、などがかなり入ってきている。

大学から、100か所ある避難所向けにマイクロバス1台に医師を20名ほど乗せて派遣。

市内の産婦人科開業医がすべて壊滅。

開業医も石巻赤十字病院に集まって一緒に診療している。

3) 岩手県南に産婦人科医2名派遣。

4) 宮城県南の拠点病院に産婦人科2名派遣。

岩沼、名取地区から直接妊婦が来院している。

5) 仙台市内の状況

仙台市立病院（年間分娩800件）の分娩室が使用できない。

手術室でできるだけ分娩はしているが、残りは仙台市内に分散。

東北公済病院（岡村名誉会員：分娩は年間1200）はライフラインが復活して、かなり妊婦を受けている。

仙台医療センター（年間1000）もOK。

仙台赤十字病院（年間1000件）もOK。

東北大学病院は完璧に機能しています。

とりあえず、宮城県内の産婦人科は大きな混乱もなく、やっております。

東北大学 **

仙台より6（3月17日7：59）

I まずはじめに・・

東北大学病院は昨日から石巻の赤十字病院の支援、避難所への医療提供のためにバスを出しています。

八重樫は隊長としてこれからバスに乗って石巻の避難所に行ってきます。

現地でメールも形態もだめです。

東北大学へのコンタクトは**、または***先生をお願いします。

二人とも周産母子センターに詰めています。

** 090-x x x x - X X X X

xxxxxxx@med.tohoku.ac.jp

*** 090-x x x x - X X X X

xxxxxxx@umin.ac.jp

II 産婦人科の現状

宮城県内の分娩はなんとか手分けしてこなしています。

今日はかなりの物資（ミルク、おむつなど）が届くと思われま。

III 医療全体

各拠点病院には医師も物資も集まっています。

IV 最大の問題は拠点となっている病院に集まっている物資をどうやって避難所に運ぶか？

ヘリでしかいけないところにも避難民がかなりいます。

情報が一元化されておらず、錯綜しています。

ガソリンがありません。

ロジスティックで勝つ、というローマに倣うことができるか？

東北大学 **

仙台より7（3月18日9：59）

I 石巻の現状

石巻に行ってきました。

津波の後の土地一面が黒くて臭い泥が覆っており、泥田の中を歩く感じです。

残っている道路も、周りの家屋が倒壊しており、平常時よりも移動に非常に時間がかかります。避難所を少し回りましたが、各避難所に1000人くらいが避難しており、現在産婦人科医が一人巡回して産婦人科の需要を調査しています。

II 石巻赤十字病院

水と電気はOK。

毎日5000人分の食事が出ています。

昨日はほとんど食料が入らなかったようで、このままだと後二日だと言っていました。

食糧難で、スタッフは一日におにぎり数個でがんばっています。

昨晩は全科から集まった日赤の救護班の先生がたには配布できないので自分で食料をとってください、という指示でした。しかし、食料については日赤本部や自治体、自衛隊などが動いておりますので、数日以内には改善するものと感じました。

III 産婦人科医の応援

産婦人科のある医療施設としては石巻赤十字病院だけが生き残っており、毎日5－6件の娩・帝王切開をこなしています。年間分娩数にすると2000件くらいになります。

35週前の妊婦さんは被災地以外に移動されるでしょうし、これから妊娠される方も最初から被災地以外で分娩予約すると思いますので、この数が続くとは思えません。しかし、分娩数が前に戻ったとしても、長期戦となった場合、婦人科としての需要は多く、また避難所に往診するマンパワーも必要です。もう数日、様子を見てから判断しますが、現時点では以下の人的支援が適切と思われます。

- ・毎日2人ずつ派遣し、一人1週間くらいで、交代していく。
- ・次の先生が現地に着いたら、前の先生が帰る、という形が良さそうです。
- ・上記を3カ月間継続。
- ・派遣する人間の資質としては「丈夫なからだをもち、慾はなく決して怒らず、一日に玄四合と味噌と少しの野菜を食べ」ながら1週間で過ごせる人間です。

IV ロジスティック

東北大学に産婦人科物資を集め、ここから宮城県と岩手県南の関連病院、開業医に配送するシステムを作りつつあります。

東北大学 **

仙台より8（3月19日10：35）

各位

I はじめに

これまでのメールの「仙台より#」の番号がダブったり前後したりしていました。

これからは3月19日で震災から9日目ということで、わかりやすく「仙台より9」としました。

II 物資の搬入状況

昨晩から各地より大量に産婦人科関連の物資が搬入されてきました。

ご支援ありがとうございます。

産婦人科関連物資は一度東北大学産婦人科に集積し、それを宮城県内の周産期関連施設に配送しています。必要物品の情報収集、在庫管理、搬入の作業、配送手配（乳業さんやMRさん、教室員の車など）などすべて教室員でやっており、教室全体で倉庫業・運搬業の感じになっています。

III 人的支援

日本産科婦人科学会の災害対策本部に流したメールで、多くの大学、施設から人的支援のお申し出がありました。

本当にありがとうございます。

まずは昭和大学から2名を1週間単位で派遣していただくことになりました。

さらに東京大学のDMATチームに産婦人科医を一人、入れていただくことになりました。

昭和大学チーム、東京大学ともに、最も被災人口の多い石巻赤十字病院に駐留いただきます。

1週間後のことは来週木曜日あたりに考えようと思います。

東北大学 **

仙台より9（3月19日13：34）

日本産科婦人科学会

災害対策本部御中（cc **先生、***先生）

3月19日13時時点での人的援助要請状況をお知らせします。

今週は以下をお願いをしました。

たくさんの先生から応援の申し出を受けましたが、**のほうでとりあえず以下に決めてしまいました。ご容赦ください。

来週以降のことは来週の木曜日ころ、再度、ご相談いたします。

宮城県：

昭和大学より2名を石巻へ

さきほど東北大学に自家用車で到着。

これから出発です。

岩手県：

順天堂大学より2名を盛岡へ

現在、*先生と**先生（順天堂）の間で調整中。

福島県：

***先生と電話で今日の朝11時ごろ話しました。

福島県は特殊な事情のようです。

沿岸から妊婦さんが移動してきますが、逆に県外に避難し始めており、出入りがちょうどトントンになっている、とのこと。

今後はおそらく県外への避難が増えて、分娩はどんどん減少していくのではないかと、というのが**教授の推測です。

したがって、産婦人科医としての人的派遣については「お申し出は大変ありがたいが現状では必要なさそう」とのこと。

東北大学 **